

使い方次
第で善に
も悪にも
なる「彼
の話は一
聴の価値
あります。

加藤氏は
日本PT
A側視点
から。「日Pは、スマホを持た
せない、から持たせる。へ大転
換。親子共々、正しい使い方を
学びスマホと共に存していく」と
高らかに宣言してました。

アトラクションは第九の合唱、
ヒップホップダンスを披露して
元気を会場中にふりまいてくだ
さいました。おもてなしの心と
してお土産売場・館外での軽食
&スイーツ出店等致しました。

最後にこの大会に携わつてく
ださつた皆様、皆様の中の一人
でも欠けてたらこの大会の無事
成功は無かつたでしよう。全て
が元気を会場中にふりまいてくだ
さいました。

おもてなしの心と
してお土産売場・館外での軽食
&スイーツ出店等致しました。

最後にこの大会に携わつてく
ださつた皆様、皆様の中の一人
でも欠けてたらこの大会の無事
成功は無かつたでしよう。全て
が元気を会場中にふりまいてくだ
さいました。

箱山智美氏は、岩手県教育委員
会の箱山智美氏にしていただき
ました。箱山氏は、五年前の東
日本大震災を経験されました。

当時は、それを教訓として岩手
県の大槌町と山田町での発災当
時のことについて・避難所での
生活について・震災後の取り組
みについて話を聞いていただきました。

行政として・地域の一員として
行政として・地域の一員として
の三つの立場からも、お話をし
てくださいました。

まず、大槌町と山田町は、と
もに海によつて栄え、津波に何
度もあると言う、海とともに生
きてきた町であることから、箱
山氏が幼少の頃より何度も言わ
れてきたことを教えてください
ました。「まずは逃げる」「枕
元に洋服をたんでおく(寒さ
対策)」、「玄関の靴は必ず揃え
ておく(夜に津波がきても逃げ
られる様に)」、「寝る前には火
は消す(火事防止)」、「一度津
波が引いても親を探しに行かな
い」「必ず見つけるので逃げた
先で待つ(津波は時間おいて何
回もやつてくる)」「家はまた
建つれば良い・お金もまた貯め
れば良い・しかし失われた家族
だけは戻す事が出来ない」等等。
次に震災ではご家族は、別々
の場所で被災したのですが、そ
のことを書いたご長男の作文が
一部を紹介して下さいました。

林崎 隆
特別第二分科会長
特別第二分科会実行委員長
特別第一分科会を終えて

箱山智美氏は、あわぎん
ホーリーにて行われ、県内外から
六百名の方が参加しました。「地
域防災を支えるひとづくり
震災から学ぶ家庭・学校・地域
のパートナーシップ」を研究課



題として、基調講演ならびにパ
ネルディスカッションが行われ
ました。

紹介してくださいました。
東日本大震災での避難の教
訓・被害を大きくした要因につ
いて話される中では、それから
得たことをどう自分に置き換え
るか、活かしていくかを述べら
れました。

最後に、「この経験を子ども
たちはいつ・どこで・どのように
に学ぶべきなのか」、「子どもた
ちを守る為に学校・地域・保護
者がどう連携すべきなのか」
という課題に、学校や子どもた
ちを中心に、地域・保護者が協
働して動き出している震災後の
取組を紹介してくださいました。



「揺れが起きたらどう動くべき
なのか」、「大きな揺れの後は、
どうするのか」、「避難所がどう
いうもので、どういうことが行
われていくべきなのか」、「被災
をどう語り継ぐことやこれらの
ことをどう実現出来るかが大事
であること」等について話合わ
れました。

視点二では、「震災から三日
経てば食料が届くので、三日待
て、「組織がうまくまとまり避
難者から要望が届くのも三日目
である」という三という数字に
注目し、どう移り変わっていく
かということを東日本大震災の
様々なデータを用いてシミュ
レーションしたことや避難所の
組織がどう係わるかについての
シミュレーション等について発
表がありました。

視点三では、「災害が怖くて
大変なのは、その通りであるが、
地域とそのつながり、その良さ
を大事にしていかなければなら
ない」「山・川・海それぞれの
環境の中で、自分達はどう生き
ていくかを子ども達とよく話合
い取り込んでいき、学校・地域・
PTAでも話合つていく事が、
防災・減災に直結して行くので
はないか」との話がありました。

また津波に遭つた昼間の町の写
真と、夜に同じ場所で火事が起
こつていた写真等もスライドで

元に持ち帰り、子どもと話合い

ました。

お褒めの言葉を頂くことがあります
導、舞台、進行の部門を受け持
ち、無事役目を終えることがで
きました。しかし、全体会の運
営で活動し出したのが、半年前
とすごく切羽詰まつた時期だつ
たと思います。

それでも、各部門をお手伝い
頂いた各郡市から集まつて頂い
たと思ひます。

當で活動し出したのが、半年前
とすごく切羽詰まつた時期だつ
たと思います。

私も全体会で、主に警備、誘

導、舞台、進行の部門を受け持
ち、無事役目を終えることがで
きました。

皆さんのご苦労が報われたので
はないでしょうか。

私は全体会で、主に警備、誘

導、舞台、進行の部門を受け持
ち、無事役目を終えることがで
きました。

皆さんのお苦労が報われたので
はないでしょうか。

ブロック別PTA活動紹介

～地域の伝統を守り 未来へつなげよう～ 家庭・学校・地域の連携

★次号のブロック別PTA紹介は、海部郡P連、三好地区P協です。

南部ブロック 那賀郡PTA連合会

会長 竹内 康浩

那賀郡は、那賀川の上流域に位置する木頭、木沢、上那賀地区と、中流域に位置する相生、鷲敷地区からなる自然豊かな地域です。那賀郡PTA連合会は、小学校5校と中学校4校で構成されており、本年度の児童・生徒数は458人です。那賀郡も少子高齢化の流れのなかで、学校の統廃合が進み、児童・生徒数、会員数ともに減少している現状がありますが、子どもたちを大切にし、何事にも協力的な地域性に支えられPTA活動は充実しています。

那賀郡PTA連合会では、5月の総会に始まり、年3回の役員会が行われています。総会の後には懇親会がもたれ、郡内各単P間の親交を深めるとともに情報交換の場となっています。また、毎年恒例の球技大会でも、会員同士の親睦が図られています。

8月30日(火) 第62回青少年非行防止並びに少年の主張、阿南・那賀中学校生徒弁論大会に審査員として参加させていただきました。阿南、那賀の各中学校から代表15名が参加し非行防止、友情、地域とのつながりなどをテーマに中学生らしく語りかけてくれました。原稿を読むのではなく、感情を込めて、



弁論大会の受賞者

堂々と聴衆に訴える中学生弁士ばかりで、その熱意と迫力に圧倒されました。最優秀に選ばれた生徒は「僕と彼が信じること」と題して、学校内の自分と家族内の彼の態度、二人の友情、そして非行に走らない決意を熱く語っていて涙腺が緩むほどの素晴らしい内容でした。

このほか、人権講演会をはじめ、那賀郡保健連合会主催の研修会への参加があります。6月に行われた保健連合会研修会では、郡内小中学校の校長、養護教諭、学校医や学校歯科医など多くの関係者にご参加いただき、意見交換を行いました。

子どもたちの現状や健康課題について話し合ったり、学校医の先生に直接アドバイスをいただいたりして、とても実り多い研修会となりました。

那賀郡の各校は、その多くがへき地指定の小規模校です。どの学校においても、学校行事をはじめとする様々な教育活動や地域活動にPTAの主体的な関わりは不可欠であり、常に、学校、子どもたちとともに歩み続けています。少子化の進む今だからこそ、PTA活動の意義や役割は大きく、今の活動が、町の将来を左右すると言っても過言ではないと思います。そんな思いをみんなで共有し、受け継がれてきた地域コミュニティを最大限生かしながら、未来につながるPTA活動を会員の皆様とともに続けていけたらと思います。



保健連合会(那賀町)

講演会を開催しました。参加者は、町内中学校の生徒・保護者・教職員・地域の住民の方などでした。ヤンジンさんは、1994年来日後、日本でただ一人のチベット人歌手として、チベットの音楽、文化、習慣などを紹介するため日本各地でコンサート活動や講演会を行い、海外でもアメリカのニューヨークで国連本部コンサート公演を果たすなど活躍されている方です。



国際交流講演会
(講師:バイマーヤンジンさん)

ヤンジンさんは、日本とチベットの文化の違い、家族のあり方やご自分が受けたいじめなどについてお話をしてくれましたが、ユーモアあり、涙ありの内容でたくさんの感動をいただき、すばらしい講演会となりました。

次に球技大会についてご紹介します。昨年度の球技大会は、昨年6月7日(日)に貞光中学校体育館を会場にして、8チームが参加して開催されました。球技大会は各単P相互の親睦が目的ですが、力のこもった熱戦が繰り広げられ、若い選手もベテランの選手も、チームの勝利のために力を合わせて頑張り、ファインプレーあり、笑いありの楽しい大会となりました。会員の減少に伴い、選手集めに苦労するチームもありましたが、どの単Pも、伝統を守ろうと頑張っていました。本年度の球技大会は11月12日(土)に開催する予定です。

美馬郡PTA連合会は、つるぎ町1町による小さな組織です。近年、児童・生徒数の減少により、PTA組織も縮小の傾向にあります。しかし、伝統ある美馬郡PTA連合会の活動を盛り立てて行くためにも、各単Pの会員とともに力を結集して、よりよい活動にしていきたいと思います。



親子食育教育
(農産物収穫を祝う祭り「お亥の子さん」)

西部ブロック 美馬郡PTA連合会

会長 井口 宗忠

美馬郡PTA連合会は、つるぎ町内の3幼稚園、3小学校、2中学校で構成されており、児童・生徒数は607名、PTA会員数は593名です。各単位PTAはそれぞれに熱心に活動していますが、毎年、研修会と球技(ソフトバレーボール)大会を開催していますので、それについてご紹介します。

まず、研修会についてですが、昨年度の研修会は11月1日(日)に「～給食の野菜を作っている農家さんに会いに行こう～」というテーマで、親子食育教室を開催しました。研修内容は、郡内の給食センターにジャガイモ、たまねぎ等の野菜(食材)を提供している地元の農家さんを訪問し、農地を見学し、野菜作りのご苦労などを伺いました。また、農家さんの庭先で今年の収穫への感謝と来年の豊作を願うお祭り「お亥の子さん」を体験しました。昼食は「つるぎの宿・岩戸」で地元の食材を使った「ふるさと料理バイキング」をいただきました。どの料理もとてもおいしくて参加者は大好評でした。昨年度の研修テーマは「食育」でしたが、地域の伝統文化に触れることができ地域創生についても考えるなど、参加者にとっては充実した研修となりました。

本年度の研修会は、8月30日(火)につるぎ町就業改善センターにチベット出身で大阪在住のバイマーヤンジンさんを招き、国際交流